

ふくでんかい
福田会育児院創設とその後の運営を支えた組織
 ー創設を支えた人々・恩賜金・恵愛部・その他の支援者の分析からー

○ 専修大学 氏名 宇都榮子 (会員番号 00207)

キーワード3つ：社会福祉施設史・支援者組織・恩賜金

1. 研究目的

福田会育児院は、1879（明治 12）年、仏教諸宗派合同で貧窮孤児、貧児救済を目的として東京茅場町の智泉院内に設立された育児施設である。

社会福祉施設の歴史について述べる際に、福田会育児院は、1871（明治 5）年東京に窮民救済施設として設立された養育院、1887（明治 20）年に岡山に石井十次によって設立された岡山孤児院などと共に、当時の日本を代表する施設としてこれまで紹介されてきた。しかしながら、前二者についての先行研究の蓄積に比べ、福田会については先行研究も少なく、活動実態についても解明されていない部分が多い。

そこで、筆者らは、福田会育児院史をその創設期から現在までにわたって明らかにする研究にまで進める必要があると考え、福田会育児院史研究会を組織し研究を進めてきた。

本発表では、施設創設を現実のものとする時代的背景、創設、その後の運営にかかわった人びと、創設時から昭和戦前期に至る組織構成、育児を支える仕組みとしての恵愛部、創設当初より寄せられた恩賜金の役割、施設財政を支える後援者組織などについて分析し、明治期から今日まで児童養護に関わっている一民間施設が、存続し、一定の役割を果たすために、どのような組織構成が考えられたのかについて明らかにしたい。

2. 研究の視点および方法

持続可能な施設利用者の生活の安定を提供できる社会福祉施設のあり方を探るため、明治期から今日まで続いている民間の児童施設の一つである福田会育児院を事例とし、組織運営のあり方について創設から昭和戦前期にあたる期間について史資料の分析を通して明らかにしたい。組織運営に関わった人物群、規定等にみられる組織、恩賜金の役割、育児、財政支援に関わった恵愛部、会友制度などの賛助組織等についてみることによって、上記の目的を達成したい。

3. 倫理的配慮

福田会育児院入所児童や保護者等の氏名、居住場所などについて特定されることのないよう配慮する。ただし、使用する歴史文書に記載された用語が、現代からみて差別用語とみられたとしても、史資料通りとし、そのことについて事前に断ることとしたい。

4. 研究結果

1) 福田会設立の社会的、宗教的意義 明治維新後、神道国教化政策がとられ、廃仏毀釈

運動により大打撃を受けた仏教界では、一つの方策として、結社形成によってこの難に対処しようとした。臨済宗妙心寺派臨済寺住職の今川貞山は、1876（明治 9）年、杉浦謙、伊達自得と共に、「仏教上慈悲の旨趣に基づき、貧困無告の児女を修養する」として福田会結成を發議した。維新期の混乱の中で、生活苦から墮胎・間引き等が行われており、貧困家庭の児童の救済は急務の事であった。1878（明治 11）年に入ると、臨済宗、日蓮宗、天台宗、真言宗、時宗、浄土宗の僧職者が数多く福田会育児院（以下育児院）創設に関わるようになった。

2）福田会設立と運営組織と財政基盤 福田会は、1879 年 1 月、日本橋区茅場町智泉院（天台宗）内に仮事務所を開設した。そして、日蓮宗一致派初代管長新居日薩を会長とし、幹事石泉信如、五古快全、今川貞山、大崎行智の 4 名を置き、会計監督委員として渋沢栄一、福地源一郎、益田孝、三野村利助、渋沢喜作、大倉喜八郎が就任し、職員組織執務についてもほぼ整ったので、育児院は 1879 年 6 月 16 日に開院の運びとなった。

福田会は、育児院運営、維持のための組織として、会友組織を設け永続会友（各宗僧侶有志）、随喜居士会友（在俗有志）によって維持されるとしていた。永続会友は、育児院開設前の 1879 年 5 月には、78 名があげられ、臨済宗 30 名、時宗 4 名、天台宗 8 名、真言宗 9 名、日蓮宗 5 名、浄土宗 3 名、曹洞宗 1 名の僧が名を連ね、慈恵金広告には、各僧の寄付金額、育児料などの約定が掲載されている。随喜居士会友は、居士仏教徒の者で、定期的な寄付金を寄せるものであった。1889 年には、正会員を永続会友（福田会の発起者で僧侶、月 5 銭の会費、随時寄付）、特別会友（入会一時金 20 円、毎月 10 銭以上の寄付）、賛成員として随喜会友をあげている。社団法人組織となる 1898 年には会友を名誉、永続、通常、随喜の 4 種に分け、1921 年の財団法人となったのちは、会員を有功（千円以上の寄付者及び特別功労者）、特別（一時に百円以上若しくは毎月 1 円以上の寄付者）、通常（毎月 20 銭以上若しくは毎年 1 円以上の寄付者）の三種にわけ、さらに賛助員（10 円以上の寄付者）を置いている。また、福田会育児院への御下賜金は、育児院創設後の 1880 年に始まり、以後、1891 年の皇后陛下からの御下賜金があり、1897 年以来昭和に至るまで、毎年御下賜金を受けるようになっていき、たびたび新聞紙上にこのことが報じられている。

僧職者を中心とした運営の中で、入所児童の養育のあり方について考慮する必要があるということから、何礼之（岩倉遣外使節団一等書記官、のちに元老院議官、貴族院勅選議員となる翻訳家で熱心な仏教徒）・多仁子夫妻の尽力で、「上流夫人」を会員とする恵愛部が 1889 年に組織され、会長に公爵夫人毛利安子が就任した。入所児童の養育は、保母長を中心として保母、教員があたっていたが、養育の管理に恵愛部の夫人たちがあたった。

5. 考察

福田会は、仏教徒を中心にした運営組織、財政基盤を築いた。明治 10 年代には福田会育児院のような育児施設はまだ少なく、新聞も活用し世のなかに知られたこと、さらに創設翌年には御下賜金を受け、社会的信用を得たことから、一般の人びとからも支援が寄せられた。また、「上流夫人」を中心とする組織である恵愛部は、育児のあり方を検討するうえでも、財政的安定を得るうえでも一定の役割を果たした。